

# 令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

## 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：21009

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇本校の児童アンケートや教職員アンケート、全国学力・学習状況調査から「知的好奇心や学ぶ意欲は強い傾向にある。」という実態がある。</p> <p>◇本校の児童に対するアンケートで「友達の考えを聞いて、自分と比べて友達のことを想像したりすることができていますか。」の項目で肯定的な回答の割合が高く、学習状況調査では、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりできた。」の項目が全国平均の肯定的な回答を上回っており、昨年度の「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力である「自分に自信をもち、他者とのつながりを強める力」に関しては、一定の成果が出ていると捉える。</p>
	<p>◇札幌市の共通指標から、「自分の意見を進んで発言しようとする。」「意見の違う人ともよく話し合おうとしている。」の項目で肯定的な回答の割合が低い。本校の児童アンケートや教職員アンケートでも同様の結果が見られる。学ぶ意欲をもつことや異なる意見を取り入れることにより、考えが深まり広がることを理解しているが、それを表現することに課題がある。学習状況調査の「自分の考えが伝わるように書き方を工夫して文章を書いている」の項目では、全国平均より肯定的な回答が下回っており、その結果からも同様の課題がうかがえる。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇札幌市の共通指標の相互承認の項目や学習状況調査の生活の項目では、肯定的な回答の割合が高いものが多いが、「自分が必要とされていると感じる。」の項目では、昨年度より高くなってはいるものの依然として、肯定的な回答の割合が低くなっており、「自分の考えに自信がもてない。」という児童の実態を捉えることができる。協働的な活動を増やして中で、自己肯定感を高めていけるよう場の設定や価値付けを昨年同様行っていく。</p>

### 「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

## 自分に自信をもち、他者とのつながりを強める力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 研究主題「子どもが教職員が主体的に、つながりを強めるマルキュラムの実現」の実現</p> <p>①子どもが主体的に個別探究を進めるために、「明らかにしたい」という情意や<u>明確な見通しをもつための事象や教材との出会いの演出(イントロダクション)</u></p> <p>②子どもがつながりを強めるための視点や手立てに焦点を当てた授業構築</p> <p>③<u>協働探究を行う場の設定</u></p> <p>④<u>学びを振り返り、自分の「伸び」を実感し、新たな目標をもてる関り</u></p>	<p>(2) 学級活動、委員会活動の充実</p> <p>①学級会や委員会などで、<u>学校の様々な課題を議論する場</u>を設ける。</p> <p>②学校の様々な課題を解決する計画や企画を考え実行する。</p> <p>③<u>学校の様々な課題に変化があったのか、学級会や委員会活動で振り返る。</u></p> <p>(3) 縦割り活動や学年での自治的な活動の充実</p> <p>①縦割りの異学年交流を委員会活動に位置付け、充実を図る。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
<p>(1) の③では、オクリンクプラスやグーグルフォームを使い、意見の集約や可視化を行うことで、協働探究の充実を図る。④では、振り返りをクラウド上に蓄積していくことで、いつでも、どの教科でも振り返ることができるようにし、児童の学習意欲へとつなげていく。</p> <p>(2) の③では、グーグルフォームなどを使い、学校全体の意見が集約・可視化できるようにすることで、児童が見出した課題がどのように変化していったのか、振り返りを行えるようにする。</p>		

### <本プログラムの実行に向けて>

